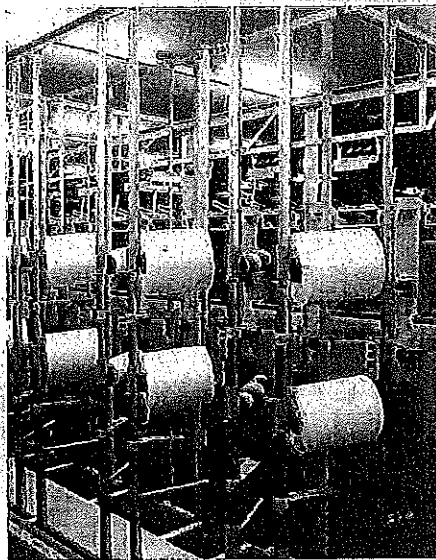


藤井燃糸(三重県四日市市)はカーペット用のナイロン系加工の国内最大手だ。国内加工量の約45%のシェアを誇り、高品質なモノ作りを続けてきた。今後は人材育成などに力を入れ会社全体のレベル向上を目指す。

同社は1957年、藤井由幸会長兼CEOの父親である由弘氏が創業。四日市市はかつて漁業が盛んだったため、当初は漁網向けの燃糸を手掛けていた。その後、漁業の衰退によってガラス繊維の燃糸に着目し、カーペット用のナイロン系加工にも手を伸ばした。

藤井燃糸

カーペット系加工で国内最大手



同社が保有する設備

工は空気の力で複数のフイラメントを絡み合わせ、新しいことにチャレンジして糸にする。2〜3種類の糸を使用することによって、(本)も調で意匠性の高い糸に仕上げることが出来る。

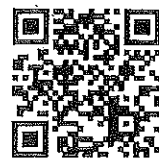
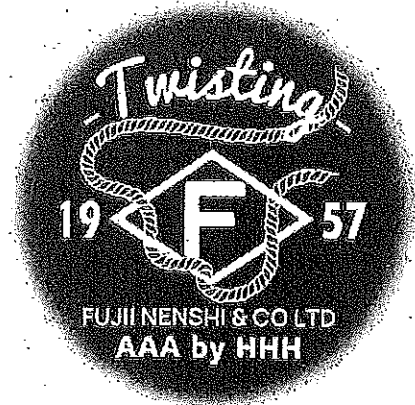
ガラス繊維の燃糸やナイロン系加工にとどまらず、2009年にはポリプロピレンの溶融紡糸も始めるなど積極的に事業を展開している。藤井会長兼CEOは「糸という

分野の中ではあるが常に新しいことにチャレンジし従業員がそれに付いてきてくれた」と前向きに語る。

人材育成については、外部講師を招いた勉強会を実施。「社員一人一人の力を伸ばし、会社全体の底上げを図る」と語る。ほかにも、デジタル化の推進やSDGs(持続可能な開発目標)達成などにも取り組む。

繊維ニース

12月18日(金)発行



<http://www.nenshi.co.jp/>

 藤井燃糸株式会社